

令和8年度第1回大府市文化懇話会 議事録

日時：令和8年5月27日（水） 午前10時から午前11時15分

場所：大府市役所5階 委員会室1

<出席委員> 7名（敬称略）

名畑 恵（錦二丁目エリアマネジメント株式会社代表取締役、NPO 法人まちの縁側
育み隊 代表理事）座長

越後谷 卓司（多摩美術大学教授）

浅田 聖謙（大府市文化協会）副座長

大橋 房代（おおぶ文化交流の杜活動団体（子育て支援サークルあそびのいっぽ代
表））

張 悦（大府市国際交流協会）

山口 智絵子（大府市副市長）

安田 文吉（東海学園大学客員教授、南山大学名誉教授）助言者

<事務局>

市民協働部長

文化交流課長、文化振興係長、文化振興係主査、主任

大府市歴史民俗資料館長、館長補佐

愛三文化会館指定管理者

おおぶ文化交流の杜指定管理者

<傍聴者> なし

1 自己紹介

2 座長・副座長選出

座長に名畑委員、副座長に浅田委員が就任。

3 議題

(1) 令和7年度下半期事業実績について

資料に基づき事務局、各施設説明

<質疑応答>

【委員】

おおぶ映画祭 2026 で、来場者数の向上が課題に挙げられている。早期ミーティングを行い例年とは異なる取り組みの実施を検討していくと書いてあるが、具体的

にどのようなことに取り組んでいこうと考えているのか。

⇒（愛三文化会館）例年は6月初旬にミーティングを実施しているが、今回は5月初旬に第1回を開催している。ボランティアのメンバーと、10周年としてどういった活動をしていきたいか、アイデア出しを行った。5～6年前に大府市をテーマに作った『スイッチバック』という映画があるが、再上映、ロケ地巡りの映像作成、当時のメンバーでの違う作品制作など、『スイッチバック』に関する案が多く出た。10周年にはあまり関係ないが、例年チラシ配布が開催1か月前と直前になるので、運営方法を見直し広報活動をする機会を広める、SNS 担当を増やしどんどん情報発信していただく、という案が出ている。6月初旬に第2回のミーティングがあるため、そこで本格的に何をやっていくか決める流れになる。

【委員】

SNS について話が出たが、一般市民として市からの配布物等を見ていたが、映画祭についてであれば、監督の方や出演者の方の SNS で「こういったものやっています」というのが流れていた。もちろん市からの PR も必要だと思うが、強制するわけではないが参加された方に PR をお願いしているのか。

⇒（愛三文化会館）こちらからお願いをすることはないが、ぜひ積極的に SNS での PR をとお声かけはしている。出演された方から、SNS で紹介してもいいかという声を、今回は2件頂いた。このようにご協力いただくことはある。

【委員】

広報紙での PR ももちろん必要。最近では、若い方は SNS で情報を得る。見直すと言っているが、SNS で積極的に情報を流すのも一つの方法ではないか。

⇒（文化交流課）SNS の活用については、非常に大事な分野だと思っている。例えば野外クラシックコンサートの時には、アーティストや関係企業の代表者に共同投稿を促したり、発信をしていただいたりしている。

いただいたご意見は、文化交流課の事業全般に言えることだと思うので、しっかり受け止めて発信を頑張ってもらいたい。

【座長】今の説明で印象的だったのは、情報発信の話ともう一つ、ボランティアの皆さんで作っていくという流れを起こされているのが、とても良いと思って聞いていた。他の事業についてもそうだが、市民参加型で子どもが作品を作るなど、市民が主役になっていくという内容を、どう評価するかについて意見を申し上げたい。参加人数というのはもちろん評価の対象になるが、もう一つ自分が大事だと

思うのは、「これは私たちがやったのだ」と思う人が多ければ多いほど良い事業だと思っている。要は市民参加の立場からいうと、自分たちみんなで作ったんだと思っている人たちの、人数が多ければ多いほど、それは大きな成果指標の一つになるのではないかと考えている。このような実施報告書に、「ボランティアたちとこう作ってきた」という情報が備考欄などに入っていると、自分としてはとても評価できるなと判断できる。今後の報告書のあり方などの参考になればと思う。

(2) 令和8年度事業計画について

資料に基づき事務局、各施設説明

〈質疑応答〉

【委員】

文化交流課とアローブで、同じようなアウトリーチ事業を行っているが、何か連携や、工夫をしているのか。

⇒（おおぶ文化交流の杜）私どもに関しては、特別支援学校や福祉施設に昨年度お伺いし、今年もお伺いする予定。アーティストも文化交流課とは違い、例えば子どもたちが楽器に触れたり、一緒に踊ったりというような参加型を前提に、アーティストを選び、派遣している。

⇒（文化交流課）毎月市とアローブで、定例会議において情報交換をしており、市が実施しているアウトリーチについても、場所やジャンルが被らないようにしている。スタートして4年目になり、歌と劇で楽しめる内容で進めている。

【委員】

とても豊かなイベントだと思う。発信について議論があったが、福祉や外国文化の視点から、発信のバリアフリー化について考えていきたい。もちろん SNS での発信は必要だが、同じように口コミの発信も大事ではないかと思う。いつもこの懇話会に参加した後、口頭で周りの方にイベントを紹介している。いろいろな面のアプローチで、大府の文化、交流、あるいは文化の内容を、より多くの方に発信できたら良いと思う。

一つ国際交流協会のお知らせだが、来年の2月14日に国際交流デーを開催する。今年はステージの演目を公募する。締切は6月19日。周りの関係者や団体がいれば、ぜひ広報してほしい。

【委員】

市芸術祭「ゼロ弾きのゴーシュ」について、チラシを見ると大府市民の特別価格販売を行っていた。反響はどうだったか。期間は終わっているがもう一度やってくれたら買いたい。

「オーティズム・アート展」は毎回拝見している。豊かな発想でいい作品が多く、見るたびに刺激を受けている。市内の福祉施設にお手伝いに行くと、出展される方ほどではないが、豊かな発想で、思いもよらない作品を作る方も多くいる。例えば市内の方たちにも作品募集して2階は市内の方の作品にするなど、皆さんの近くにも障がいを持ちながらも豊かな発想を持った方がいることを知ってもらえる機会となったらいいと個人的に思う。

「読書感想画コンクール」についても、毎年楽しみにしている。学校ごとに授業内で、何年生はこの本を読んでそれを描いていると思うが、作品を見るとどんな絵本か読んでみたくなる。アローブと連携して、この期間内に課題になった絵本が紹介してあると、図書館にも足を運びたくなるのではないか。

「0BU-1 グランプリ」は気に入っている事業のひとつ。しゃべくり漫才が好きで、言葉を巧みにして周りを笑顔にする方たちが好き。0BU-1 グランプリも毎年見に行っていて、出場してる方だけでなく審査員がその場で話すコメントもとても勉強になって、それも楽しみの一つになっている。個人の好みかもしれないが、去年の「0BU-1 賞」は奇抜で笑えなかった。「0BU-1 賞」は大府を元気にしてくれるという位置づけの賞だったと思うので、ぜひ皆が元気になれるような方を基準で選んでもらえると嬉しい。

最後に「大府市読書活動推進計画」は期待している。今は紙ではなくデジタルで本を読む若い子が多いのは重々承知だが、気に入った本を購入し、手元に置いて心の支えにできると良いと思う。子どものころに読んで気に入った本をずっと持っていて、大人になってまた読み返してやっぱりよかったというような、安心感を抱いたり、支えられたという経験がある。紙媒体の本との出会いを大切にする内容が盛り込んであると良い。今は学校でタブレットが配布され、朝読はデジタル図書で読んだりするのも良いとは思いますが、本屋や図書館に行って、色々な本を自分の目で見て、直感で出会う、紙の本との一期一会の出会いを体験できるような推進計画になっていたら嬉しい。

⇒（文化交流課）いくつかあったので一括して回答する。

「ゼロ弾きのゴーシュ」チケットの市民割については、反響は上々だった。チケットにまだ余裕があるので、出演俳優からの発信も含め今後強化していく。

「オーティズム・アート展」については、高齢障がい支援課でパラアートに力を入れている。市役所1階のパラアートコーナーや、4年に1度開催するパラアート展などと連携しながら、文化交流課としても注視していきたいと考えている。

「読書感想画コンクール」については、図書館と連携という非常にいい案を頂きありがたい。そこに向けて進めていきたい。

「0BU-1 グランプリ」については自分も同感なので、審査について意見を言えるか分からないが、より皆さんに気持ちよくいていただけるように気を付けていきたい。

「読書活動推進計画」については、デジタルから紙媒体へということで、市としても非常に意識している。一緒に話し合いを行う図書館運営委員会も紙の本好きの方ばかりなので、そちらの方向で議論が進むのではないかな。

⇒（市民協働部）「0BU-1 グランプリ」について補足するが、今年度担当課が生涯学習から文化へ移管した経緯として、もともとは生涯学習の中で、市民のお笑い芸人の育成を目的に行っていた事業だが、若手芸人の登竜門という位置づけになり、ほぼプロの方が多く出場するようになってきた。好き嫌いというのは当然あるが、大府の一番のテーマは健康都市であるので、市民の皆さんが楽しめるよう、審査においては違和感を持つ方もあったということはしっかり伝えていくので、今年もぜひ多くの方にご来場いただきたい。

【委員】

文化事業については、アローブ、愛三文化会館、歴史民俗資料館、市文化交流課で、本当にたくさんの事業をやっていただいている。事業数が多いなか、どの事業もそれなりに人が入っている。やはり大府市民の皆さんのアンテナが高く、情報をキャッチしている。本当に素晴らしいと思うが、毎年やっている事業もある。例えば「おおぶ野外クラシックコンサート」は、私も見に行ったのは2～3回だが、若干出演者が固定されている傾向はないか。今年度はどのようにやっていくのか。

⇒（文化交流課）今年度は5周年でもあり、アーティストを拡充していきたい。

肝となるのが、総合プロデューサーを務める広報大使の山下俊輔さん。推進委員会からの案を申し上げると、まず若手アーティストを積極的に出していきたいと思っており、ここでステージを経験して、さらに大府に還元していける、多くの市民を盛り上げていける方を創出したい。

また、市内在住の三味線奏者で鈴木臣吾さんという方がいる。この方の三味線が素晴らしく、この前も津軽三味線で全国1位となった実績がある。バイオリンだけではなく違う楽器についても、このコンサートの場で登場していただこうと考えている。

【委員】

今後も名称は「クラシック」で続けていくのか。クラシックにないジャンルも入っているのではないかな。

⇒（文化交流課）クラシックという言葉は「伝統的な」という意味も含む。三味線もクラシカルな楽器であり、ジャズも地方によってはクラシック。狭義でとらえず、いわゆるクラシック音楽に限定せずに、広い意味でとらえ、弦楽器をテーマにしながらかけていきたいというのが現在の考えである。

【委員】

鈴木臣吾さんの三味線はコンサートで聞いたが、本当に素晴らしかったので、とても期待している。

【委員】

先日自分が委員をしている団体で、プログラムの後ろにふれあいバスの時刻表を載せた。大府駅から会場まで、開催時間に間に合うバスだけをピックアップした。市民は良いと思うが、市外の方が大府に来て愛三文化会館やアローブに見に行く時、バスの時刻表をただずらっと並べるより、目的地と時間をピックアップして示すと、公共交通機関でも行けると分かってもらいやすく、アクセスの選択肢の一つになる。

⇒（文化交流課）貴重な意見ありがたい。取り入れて進めていきたい。

【座長】

今まで出た議論から4点振り返りたい。

まず1点目は「情報発信」。SNSに加えて、口コミという話があった。「セロ弾きのゴーシュ」の話題が出ていたが、まさに、あと残り300枚のチケットについて我々が話題の発信点になるつもりで考えていただければと思う。

2点目は「連携」というキーワード。アウトリーチの話もそうだが、オーティズム・アート、図書館と読書感想画コンクールの話、こういった館同士、市と市民などの連携を一つのキーワードとしてお話しいただいた。

3点目は「市民が主役」ということ。まさに映画祭のボランティアの話や、おおぶ文化交流の杜ではサポーター養成をいただいている。担い手を育てていくという視点をより一層大事にしていくという気付きを頂いた。

4点目は、0BU-1 グランプリの審査の際に話題となったことだが、すべての事業において「大府が元気になる」という軸を持つことが大切なのだと感じた。アートや表現の分野では、ときに違和感や不快感を覚えるものもあり、それらが重要なメッセージを含んでいる場合もある。そのような多様性を尊重しつつも、「大府が元気になることが大事」という根本的な視点についてご指摘をいただいた。この4点を大切にしながら、今後の活動に取り組んでいきたい。

【助言者】

こういった事業は第一歩の出発点があり、そして成長がある。自分が関わっている子ども歌舞伎は10年ほどやっているが、これまで一演目のみが多かったなか、

今年は2演目。いつもやっている「白浪五人男」だけではなく、新たな演目をやる。子ども落語教室「大府の笑学校」も良く続いている。これらは（セリフなどで）言葉を覚え、日本語ってどんな特徴があるのかなという学びになり、行儀作法や歴史も勉強になる。

ジュニア弦楽団もすぐにやれるようになるのがすごい。曲目選定など、どの事業もなぜそれをやるかが大切になる。いろいろな企画があり、一つ一つは大変かもしれない。しかし、「何故これをやるのか」を押しえておくと長続きすると思う。

徳川八代将軍が質素儉約を行った理由は教科書を見ても何も書いていないが、ちゃんと理由がある。そういうことをきちんと知っておく、解明することが、子どもたちにも皆さん方にも必要であり、一番大切だと思う。事業活動はバラエティに富んで、本当に細々としたところまで行き届いているので、毎年進歩発展がある中、「この曲にはどんな意味があるか」など、「なぜ」という部分を主催者として押しえておいた方がよろしいかと思う。

【座長】

お褒めの言葉と、「何のため」という哲学となるものを「たゆまず問いかけ続ける」という、非常に大事なメッセージを頂いた。

【次回開催連絡】 令和8年10月下旬から11月頃に開催を予定